

令和6年度第3回京丹後市総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月30日（水）午後4時30分～午後6時30分
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎 205会議室
- 3 出席者 <審議会委員>
杉岡 秀紀委員、 松宮 とも恵委員、 中村 俊彦委員、 山崎 高雄委員、
西途 陽子委員、 今津 正史委員、 小谷 順一委員、 角田 吉高委員、
田中 良尚委員、 上田 美知子委員、 味田 佳子委員、 和田 直子委員、
丸田 智代子委員、 西原 肇委員、 阿辻凜太郎委員、 谷 清子委員、
中村 心児委員、 大槻 美穂子委員、 上羽 柚夕委員、 大島 舞歌委員、
井藤 湊都委員
<アドバイザー>
村上 章アドバイザー、 稲岡 克彦アドバイザー
<委員随行者>
安田 楓氏、 室川 幸成氏
<事務局>
市長公室長 引野 雅文、 政策調整監 川口 誠彦、
政策企画課 課長 松田 吉正、 課長補佐 井上 和也、
主任 上田 雅也、主事 青木 滉人、 主事 渡利 大洋
欠席者 池田 満委員、 中川 正樹委員、 田茂井 勇人委員、 平田 勝彦委員、
吉岡 光義委員、 藤井 美枝子委員、 川口 勝彦委員、 岡本 美香委員、
岡本 竜保委員、（以上9名）
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 会議録確認者の指名
 - (4) 議題
ア 第3次京丹後市総合計画の策定に向けた「未来創生ワークショップ」の開催結果
イ 第3次京丹後市総合計画（素案）について
ウ グループワーク
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴人 1人
- 7 要 旨 下記のとおり

議事録要旨

(1) 開会

(2) 会長挨拶

- ・ 本日は、前回までの審議会での意見や、高校生や若者を対象としたワークショップの結果を踏まえて、事務局から総合計画の素案を提案いただく。
- ・ これはまだ素案の段階。前回と同様にグループワーク形式で1人あたりの発言時間を多く取っているの、たくさん議論をして内容を深めていければよいと思う。

(3) 議事録署名人の指名

- 松宮委員と、小谷委員を指名

(4) 議題ア 未来創生ワークショップについて

- 資料1に基づき、事務局から説明
- 質問なし

(4) 議題イ 第三次京丹後市総合計画（素案）について

- 資料2に基づき、事務局から説明
- 質問なし

(4) 議題ウ ワークショップについて

- 委員名簿のとおり6つのグループに分かれ、資料2・資料3に基づき下記の内容を議論
資料2・・・計画全体における感想、4つの基本戦略、市が行う施策について
資料3・・・市民自身がまちづくりに取り組めることについて

➤ 各グループで出された意見は以下のとおり

01 産業・観光（かせぐ）

- ・ 計画素案全体として、文章が難しい、長い印象。
- ・ 「かせぐ」は絶対大事であるが、4つの基本戦略の順番はこのままで良いのではないかと。順番はつけられないので、これが循環していきながら、すべてを伸ばしていくイメージ。
- ・ 二宮尊徳は「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である。」（経済活動と道徳的な価値観が相互に補完し合うことで、健全な社会が築かれるべき。）と説いた。
- ・ 7つの目標の絵については、少し違和感がある。
- ・ 「幸福」については、価値観が人それぞれ違うので、難しいテーマだと思う。
- ・ 農業の面では、関西圏への地理的な距離、少量多品種でまとまった物量が無いという課題がある。物流の解決策として地域商社があるが、まだ使いにくい面がある。農業者がうまくまとまることができないか。
- ・ 食には海のものもある。1次産業は6次産業としての展開が必要で、観光もリンクしたものにする必要があるのではないかと。レストランなどでも、売る場所をつくるなど。
- ・ 資料3の「私たち市民にできること」については、もっと単純に分かりやすく書くべき。例えば産業だと、「異業種同士で交流します。」「発想が豊かになり面白い場づくりをします。」などの短い言い回しでもよいのではないかと。
- ・ 観光の面では、いかに来てもらうかということで、PRの面が前面に出てしまうが、漁業、農業等の地域資源をいかに磨くか、持続可能なものにしていくかということが大事。

02 農林水産環境（つなぐ）

- ・ 4つの基本戦略の「かせぐ」という点については、ふるさと納税もあるが、やはり市内の事業者が「稼げる環境を作る」というのがやっぱり必要。「稼いでもらう」というよりも「かせぐ」という言葉の方がふさわしいのではないかと。
- ・ 基本戦略の順番についても、どれも大事なのでこの順番で良いのではないかと。それよりも、一つ一つをわかりやすく表現することの方が大事。
- ・ 京丹後の魅力の「食」を観光客へ提供するだけでなく、地元民による地産地消も大事。
- ・ 「自然エネルギー」「再生可能エネルギー」「次世代エネルギー」など、エネルギーだけで様々な言葉が使われており、ややこしいので整理したほうが良い。

- ・ 全体的に、文章が長く、読みづらいので、工夫してほしい。
- ・ 「海岸漂着物」というよりも、「海ごみ」の方が分かりやすい。漂着物だけでなく、海岸に来た人が出すゴミもある。
- ・ 情報発信の部分で、「ICT等の活用」となっているが、「SNS等の活用」とするなど、分かりやすい表現に修正できる点がまだある。高校生は、Instagram か X（旧 twitter）は使うが、Facebook はやらない。
- ・ 資料3の「私たち市民にできること」については、やってみようかなと思えることを具体的かつ端的に書いてほしい。

03 健康・生涯学習（つなぐ）

- ・ 計画全体的に一つ一つの文章が長い。
- ・ デザインの点で、ページ背景から色を変えるなどしたらもっと見やすくなるのではないか。
- ・ 4つの基本戦略は、4つそれぞれ別のものであるが、お互いが関係し繋がりがあって、すべてを押し上げていくようなイメージ。
- ・ 「かせぐ」を基本戦略の一つに掲げるということについて、老人などの稼げない人を排除するのではなく、そういう人も含めてみんなで育て、地域一体で稼ぐようにしていくことが大事。
- ・ ふるさと納税も大事だが、それ以上に地域資源を磨くことが大事。地域一体として稼ぐことは、対外的にも魅力的なまちに映り、住みたいという人も出てくると思う。
- ・ 富山県の中学校では、10日間の職場体験を実施しており、県内に就職したい、残りたいといった人が増えていると聞く。地域内の子に対して地域産業に触れる機会を作るのは大事。
- ・ 今の若い人たちは、お金よりも楽しく働ける環境を優先させる傾向があるので、仕事や人間関係で満足いけば、帰ってくるのではないか。世界基準の職業選びになってきている。そういった企業を増やしていければよい。
- ・ 芸術の点では、先人が作った作品が倉庫などに埋もれていると聞く。現在も陶芸や染織など、様々なアーティストがいる。それらに、もっと身近で触れていただける機会を作って、その技術や文化を繋いでいくような取り組みが必要。また、どんなものづくりをしている人がいるかリスト化し、その人同士が繋がっていくことが大事。
- ・ 計画内にQRコードを添付して、計画内に記載したこと以外にもっと様々な情報を見れるようにするべきではないか。6町が合併しているので、特定の地域の写真だと、不平等に感じる人もいるかもしれないため。
- ・ 丹後は歴史が深い。丹後王国物語を作って、発信していったほしい。

- ・ 地域の草取りで、SNS等でボランティア呼びかけをしようと思ったが、保険や事故が起きた際の対応等について、どうしたらよいか分からずやめてしまった。こういったことへの対応がもっと整理できれば、協力しやすくなるのではないか。
- ・ 行政だよりになりすぎる人（団体）もあるが、民間と行政がそれぞれの役割でうまく連携していければよい。

04 安全・安心（ささえる）

- ・ 2回目の審議会で、老人会・吉岡委員が「幸福という言葉を使ってほしくない」という意見があったが、これについて議論されていないのではないか。
- ・ 高齢者の方が「幸福」についてナイーブになっている人が多い。幸福は、個々人の心の問題で、政策を打っていった上での結果としてあるもの。政策で幸福にするというのは、個人の心に入り込んでくる感じがある。お年寄りの多い京丹後では特に大切にすべきではないか。
- ・ 4つの基本戦略の中に、「男女共同参画」というキーワードが見受けられない。「女性」というキーワードを積極的に入れる（女性参画を強調する）ような時代ではないが、全く無くしてよいほど「男女共同」が浸透しているわけでもない。
難しいと思うが、表現に配慮しながらこういったことを入れてほしい。
- ・ 多様性という言葉も良いが漠然としすぎているので、具体的なことも交えて書けないか。
- ・ 「100才活力社会」について、100歳の方がバリバリ動くというのは現実的には難しいと思う。100歳の方がたくさんいる（長寿）ということも良いことだが、みんなが孤立せずに生きていける地域、居場所（趣味など）があることの方が大事。
- ・ 誰一人取り残さない京丹後市をつくるためにも、みんなが情報を取りこぼさないようにすることが大事。
お年寄りから子供まで地域の中で交流し合う（世代間交流ができるまち）というのを目指すべきではないか。

05 福祉・地域（ささえる）

- ・ デザインの面だと白抜きの文字が見えにくい。
- ・ 一つ一つの文が長いので、文章を短文にして、段落を分けて記載した方がよい。
- ・ 7つの目標と4つの基本戦略の関係性が分かりづらい。
- ・ 4つの基本戦略の順番について、はぐくむが一番は納得。その次に「ささえる」より前に、「かせぐ」がくるべきではないか。「かせぐ」ことができた先に、「ささえる」ようになるの

ではないか。

- ・ MaaS などの難しい言葉を分かるようにしてほしい。MaaS が「ささえる」の中で 2 番目に来ているが、アプリを使えない高齢者もいるので、2 番目でなくてもよいのではないかな。
- ・ ウェルビーイングは、中心に出てくるほどはまだ浸透していない言葉。市民総幸福という単語と両方入れる必要はないのではないかな。
- ・ 福祉について、誰一人取り残さないというのであれば、どこかの世代に偏った記載が増えないように、全体バランスに気を付けて構成すべき。
- ・ 高速道路が延伸したということもあるので、企業誘致のことを書いても良い。
- ・ 誰一人取り残さないという言葉があるのか、本当にそれができているか。
- ・ 民生委員をしているが、独居老人への支援については、他の地域よりもできていると思う。完全にできているというわけではないが、置き去りにされているわけでもないと思う。
- ・ 地域との接点が無いので特に何をしてもらえなくてもないが、区費が高い。移住してきた人も、入りやすい地域コミュニティにしていくことが大事。
- ・ 資料 3 の「私たち市民にできること」については、強制されているように感じる記載もあるので、書き方に注意すべき。
- ・ 障害者福祉の面では、福祉ボランティアというよりも、気持ちの面で理解してもらおう（障害者理解）というくらいのもので良いと思う。手話など分かりやすい具体例も入れながら、全市民ができそうな身近なものを箇条書きで書いてはどうか。
- ・ ヘルプマーク（援助や配慮を必要な方々がそれを知らせるマーク）など、そういったことを説明する（認知を広げる）ようなページを作っても良い。

06 子育て・教育（はぐくむ）

- ・ 取り組む施策については、特に現時点で追加することは思いつかない。4 つの基本戦略の順番も特に異論はない。
- ・ 全体的に、読みやすい計画になってはいると思うが、まだ一つ一つの文章が長く、文字量が多い。端的に分かりやすく書いてほしい。
- ・ 「STEAM 教育」など一般市民にとって難しい言葉は、注釈を入れるなどの工夫が必要。
- ・ 「はぐくむ」の横のタイトル部分で、「未来」と「まち」という文字が 2 回出て来て重複しているので、少しわかりづらくなっている気がする。
- ・ 「はぐくむ」の中の施策の表示順を、乳幼児、義務教育、高校生、生涯教育といった成長過程に合わせた方が、よいのではないかな。

- ・ お母さんを積極的に支援するというよりも、子育てする親が学ぶ場の提供（オンライン）など、主体的に子育てしていけるような環境を整えていく、促していくような施策を行ってほしい。
- ・ 資料3の「私たち市民にできること」についても、文章を箇条書きで簡潔に分かりやすくしてほしい。書いてある目的が、市として目指すことではあるが、市民が意識している目的ではないと思う。
- ・ 「社会教育」と「生涯教育」という言葉が入り混じっているので、整理したほうが良い。
- ・ 施策2で、「学力が着実に向上し」とあるが、学力の向上だけで良いのか疑問である。身体の成長、スポーツなど、他にも延ばすところはあるのではないか。

➤ 村上アドバイザー

- ・ 資料3の「市民にできること」は、府の総合計画でもここまでの深い議論はできていない。
- ・ 施策によっては市民ができることの濃淡はあり、記載しづらいところもあると思うので、あえて、この項目を設けない施策というのがあってもよい。
- ・ また、表現方法によっては、強制されているという印象にも繋がりがねないので、よく検討いただきたい。

➤ 稲岡アドバイザー

- ・ この施策の実現に向けて、外部の力を活用していったほしい。
- ・ スタートアップ企業が盛り上がっている中で、実証的に事業を行う場を探している企業も多い。そういった企業を誘致したり、関係人口を増やしていくことで、人が入ってくる。

（５） その他

➤ 事務局から、資料4に基づき説明

- ・ 次回審議会は、令和6年12月5日（木） 19時00分から開催
- ・ 場所は、京丹後市役所峰山庁舎 201～203 会議室

（６） 閉会